

第 1 回 静岡市計画相談オリンピック

社会福祉法人 明光会 第 1 回静岡市計画相談オリンピック実行委員会
〒421-1211 静岡県静岡市葵区慈悲尾 180 番地

助成事業の概要

障害者自立支援法の一部改正に伴い、今後障害福祉サービスを利用するためには「サービス等利用計画」の作成が義務付けられた。この「サービス等利用計画」はケアマネジメントの手法を用い利用者のニーズを明らかにしたうえで課題解決に向けて適切なフォーマル、インフォーマルサービスを組み合わせた支援計画である。作成担当者は特定相談支援事業所に所属する相談支援専門員であるが制度が始まって間もないため質、量ともに不足しているのが現状である。

実際に計画を作成している専門相談員も「どのように作ったらいいのか」「この計画で本当にいいのか」等と 1 人で悩んでいるしまわりに相談できる人もいないと言った悩みも聞かれる。

そこで相談支援専門員 1 人 1 人が立てた「サービス等利用計画」を発表する機会を設けその内容や作成プロセスを競いあい、相談支援専門員の質的向上を図るとともにそれぞれが抱える悩みの解決策を探ろうと企画した。サービス等利用計画の立て方という基本的知識の講演と相談支援専門員による計画の発表の 2 本立てで構成するイベントとする。

実施時期は平成 26 年 1 月。

事業の成果

平成 26 年 1 月 25 日（土）午後 1 時 30 分より静岡市中心部にある「静岡市産学交流センターペガサート 6 階のプレゼンテーションルームに

約 60 名の参加者を集めて「第 1 回静岡市計画相談オリンピック」を開催した。行政機関、サービス事業所職員、相談支援専門員といった専門職だけでなく利用者、家族も参加していただいた。また助成団体である公益財団法人日本社会福祉弘済会からは遠藤理事・事務局長が駆けつけて下さりご挨拶をいただいた。

静岡県の相談支援専門員の研修講師でもあるあしたか太陽の丘 静岡県地域生活支援センター主幹の鶴田安弘講師に「より良いサービス等利用計画とは」～計画のどこに注目するか～と題して講演をお願いした。計画作成が本格的に始まってまだ 1 年余。計画の立て方の過程、主訴のとらえ方とニーズへの展開、書き方に至るまでわかりやすく、時にユーモアを交えての講演であった。

専門相談員にとっては日頃自分が作成している計画と比較して自信が持てた部分がある一方でこれではだめだったのか、こうすればいいのかといった思いを強くしたのではないかと思う。

この思いが今後のより良い計画作成に繋がる原動力となるであろう。そのことが利用者の利益に直結する。サービス事業所にとっては個別支援計画と密接に繋がるものだけに興味を持って聞いていただけたようである。また行政機関の方々にはサービス等利用計画の評価という点で参考になったのではないかと思う。利用者、家族にとってはまだなじみのないサービス等利用計画であるがどのように計画が作られるのかということは理解していただけたかと思う。

講演のあと相談支援専門員 6 名による計画の発表を行なった。それぞれ初めての経験であった

が自ら作成した計画だけにそれぞれの思いが発表のなかに込められていたと思う。鶴田講師の話と比べどのように作成していけば良いか身をもって体験することとなった時間であった。

今回はオリンピックと銘打って金、銀、銅の順位を付け表彰も行った。福祉分野では順位付けはあまり行なわないと思うが相談支援専門員の質的向上を目指すうえで「良いものはこういうものである」と示すことは必要である。表彰された相談支援専門員だけでなく参加した全員にとって仕事の励みになったことは間違いない。遠藤理事・事務局長からは思いがけず日社済賞もいただけて有難かった。

成果の広報、公表

当日の様子は翌平成 26 年 1 月 26 日の静岡新聞朝刊、中日新聞朝刊に大きく掲載され広く県民に知っていただくこととなった。「新聞見たよ」という声を関係機関の方々から届けて頂いている。

「第 1 回計画相談オリンピック」の講演内容と各メダリストの発表内容、資料をまとめて「第 1 回静岡市計画相談オリンピック報告書」として発行し関係各機関に配布し成果の公表を行なう予定である。

この報告書は市内の特定相談支援事業所の専門相談員をはじめ関係する行政機関、特別支援学校障害福祉サービス事業所へ配布予定であるほか静岡市の各図書館にも贈呈を考えている。

また法人のホームページ上で当日の様様や成果について紹介するとともに法人の各事業所において発行している広報誌等でも紹介していくこととしている。

静岡市相談支援専門員連絡会で行っている勉強会で講師の講演資料を配布し当日の様様を報告することとしている。

今後の展開

第 1 回静岡市計画相談オリンピックを契機として利用者や家族に「サービスを利用するためには利用計画が必要」という意識が芽生えてくると思われる。これに対応できるように各特定相談支援事業所で利用できる計画作成の手引き資料等を整えていく。また一昨年から行っている市内の相談支援専門員の勉強会を今後も引き続き行っていく。毎月 1 回行う予定であるが多くの相談員に集まってもらえるよう工夫したい。勉強会の活動主体は「静岡市相談支援専門員連絡会」であるが現在任意団体であるのでこれを NPO 法人化していく。

全国組織である「日本相談支援専門員協会」等とも連携し全国レベルの相談支援技術の習得に努めていきたいと考えている。

この計画相談オリンピックを来年以降も毎年 1 回継続して開催することによって相談支援専門員のレベルアップを図っていきたいと考えている。

また現在は静岡県で行っている「相談支援専門員初任者研修」や「現任研修」を静岡市でできるように技術の向上に努め、関係各機関に働きかけていきたいと考えている。